

中山間地域における農業活性化による農家生計向上プロジェクト（2016年～2018年）



安心安全野菜の栽培指導で村全体の収入向上

■ 実施団体：

NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク（IFPaT）
（提案自治体：茨城県笠間市）

■ 対象国・地域：

ベトナム国ソンラ省ソンラ市
タン村、タイフン村

■ 現地カウンターパート

タイバック大学

■ 協力内容：

- ・ 点滴灌漑を利用した野菜栽培技術の導入
- ・ 安心安全野菜技術の導入および高付加価値農産物の栽培指導（簡易施設園芸、堆肥づくり、減農薬栽培等）
- ・ 農産物加工技術の指導および流通販売体制の強化



■ 団体のこれまでの取り組み：

茨城県はベトナム農村開発省との交流覚書を締結しており、農業実習生の受入などベトナムとの農業協力を推進している。

■ 事業実施の背景：

JICAは技術協力「北西部山岳地域農村開発プロジェクト（2011年～2015年）」を実施。得られた研究成果を地域に貢献させるべく、同事業でプロジェクト専門家を務めたIFPaTとカウンターパート機関であったタイバック大学と共同で計画した。

ベトナム国の課題と成果

課題

ソンラ省はベトナム北西部の山岳地帯に位置し、国内でも開発が遅れた農業地帯。地域振興のためにも付加価値のある農産物の生産向上が求められている。

成果①

導入したネットハウス・マルチ栽培や堆肥利用が確立され、タロイモやサツマイモが以前より30%高値で販売できるようになり、収入向上につながった。

成果②

日本研修や専門家からの指導を通じ、付加価値向上のために絶えず工夫する意識が広まり、事業終了後に農業組合が設立、ネットハウスも自発的に建設された。

事業の波及効果



提案自治体の市長や高校生もベトナム訪問 市同士の交流が活発に！

期間中に市職員など市関係者延べ15名を現地派遣。延べ26名のベトナム研修員来日の際には農業実習やホームステイのプログラムを通じて、市民との交流を実現した。これらの効果もあり、活動終了時には笠間市長もソンラ市を訪問するほど親越に。また、笠間市内の高校生3名が現地を訪問し、高校生と交流。対象地域で生産された野菜のブランド化に協力すべく、農家の似顔絵ラベルを作成する活動にも発展した。